

こんにちは。アメリカ生活も2ヶ月を過ぎました。私の住むメリーランド州ベセスダは、まだとても陽が長いです。日の出が6:30頃で、日の入りが19:30頃になります。私がこちらに来たときは、もっと陽が長かったため“夜”という感覚が掴み難かったのですが、少しずつ、この日の長さにも慣れてきたところです。

私の最近のスケジュールは、月曜日と金曜日に、病棟に行きプログラムに参加したり、看護師さんに質問をしたりしています。その他の火曜日、水曜日、木曜日は、Vijay先生の研究のセッションの場面にVatsalaya先生、Bethany先生、MarionさんやMollyさんと一緒に参加します。

今回は、ある日の病棟で行われていた看護師による勉強会の様子をお伝えしようと思います。

私が参加したのは、防衛機制をテーマにした勉強会で、月に1回1時間、看護師が担当しています。この勉強会では、「否認」だけではなく、「合理化」「投影」「最小化」「退行」「知性化」など、12の防衛機制について説明していました。参加者は6人で、



担当看護師は1人。全員で輪になるように椅子に座り、勉強会は進められました。資料を配布し、看護師が防衛機制の概略を説明した後、参加者が順番に一つずつ防衛機制を読み上げ、その内容に当てはまる自分の体験を話していきます。大抵、一つの防衛機制に対して2~3人が自分の話をします。これは、看護師も同じで自分の体験を話していました。

私は、この講義の内容はとても難しいと思ったのですが、参加している患者さん達全員が、今読んだばかりの防衛機制の内容に該当する自分の体験を、すぐに話すことができていることにとても驚きました。しかも、一人の話が終わったら、すぐに手を挙げ自分の話を積極的にしています。勉強会終了後に、担当した看護師と勉強会の雰囲気は文化の違いが大きいという話をしましたが、それだけではないように思いました。日本語の同じ授業でも、私はすぐに自分の体験談は出てこないだろうなというのが、率直な感想です。

また、看護師の勉強会の進行方法についてもとても勉強になりました。当たり前のことですが、参加者に耳を傾け、相槌をうち、身振り手振りを交えて参加者と話し合う場面は、相手が話をしてくれたことに感謝をし、話を受け入れている姿勢があるように思いました。東7下病棟も同じ位の人数を対象にした看護師が行う勉強会を行っています。勉強会の内容は違いますし、日本とアメリカの文化も違いますが、看護師として実践しなくてはならないことの刺激を受けたように感じます。

最後に、週末に立ち寄ったカップケーキ屋さんの写真も載せます。とてもポップで華やかなアメリカらしいカップケーキがたくさん並んでいました。1つ食べれば、大満足の量と甘さのカップケーキです。

